母親の心理・行動と新生児の行動特徴

兼　子　和　彦（葛飾赤十字産院産婦人科）
水　上　啓　子（お茶水女子大人間文化研究科）

Ⅰ．研究計画

1.　研究目的：妊娠中の母体環境としての心理・行動が児の行動特徴におよぼす影響に関してはいまだ明らかでない。

この方面の解明を目的とし，妊婦については性格・心理状態，生活環境および妊娠に対する意識を調査し，その児の行動特徴との関連についての分析・検討を企図した。

2.　研究対象および方法

1）研究対象は葛飾赤十字産院に通院し母親学級受講の初産婦とその児。

2）研究方法

①　母親の調査

妊婦の性格評価には矢田部・ギルフォードの性格検査法を用いる。

妊婦の心理状態の評価にはＣＭＩ健康調査表を用いる。

妊婦の生活環境ならびに妊娠に対する意識調査には独自に作製した調査表を用いる。

②　児の行動特徴の調査

児の行動特徴の調査はブラゼルトンの新生児行動評価法により，出生後１週間以内に調査を実施する。

Ⅱ．年度別研究計画

1.　昭和58年度

上記研究計画のうち主にＣＭＩ調査表による調査とその児のブラゼルトン新生児行動評価法による調査をすすめ，両者の関連性についての検討への着手。

2.　昭和59年度

1）ＣＭＩ調査表の成績とブラゼルトン新生児行動評価成績との関連に関する分析・検討。

2）妊婦の生活環境と妊娠に対する意識調査結果とブラゼルトン新生児行動評価成績との関連についての分析・検討。

3）双胎妊婦ならびにその児について前記研究計画にもとづき母児の相関につき検討をすすめる。

3.　昭和60年度

1）矢田部・ギルフォードの性格検査法成績とブラゼルトン新生児行動評価法による児の行動特徴との関連につき分析・検討する。

2）昭和58年，59年度のデーター集計

以上より周産期における母体の性格・心理状態の児におよぼす影響につき分析・総括し，妊・産婦の生活指導に関する要因を抽出したい。

昭和58年度研究報告

妊娠中の母体環境のうち母体の心理・行動が児の行動特徴におよぼす影響に関し，本年度以下の如く実施した。

葛飾赤十字産院に妊娠初期より受診し当施設で分娩に至った妊婦およびその児を対象とし，現在までに妊娠初期と末期においてＣＭＩ健康調査表による心理状態の評価ならびに妊婦の生活環境・妊娠に対する意識について独自に作製した調査表による調査を行い延べ316例に至っている。

これらの妊婦のうち分娩に至ったものの児については出生後１週間以内にブラゼルトンの新生児行動評価を実施中であり，最終的には対象数100例を目標とし，とくに妊娠末期におけるＣＭＩとブラゼルトンの新生児行動評価の結果との関連につき分析・検討中である。